

ワカウラツボ *Wakauraia sakaguchii* (Kuroda et Habe)

【選定理由】

本種は、内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺のやや深く埋もれた転石や朽ち木の下に生息する。県内ではヨシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる(木村, 1989; 木村・木村, 1999)。年による変動も大きい。庄内川河口域、藤前干潟には健全な個体群が確認されている。その他の生息地での個体数は非常に少ない。絶滅の可能性が高い種であると評価された。

【形態】

殻は殻長約 5 mm と小型で、長卵形。臍孔はなく、蓋は革質で薄い。近似種のカワグチツボ *Fluviocingula elegantula* (A. Adams) とは臍孔がない点、殻が厚い点などで区別される。



名古屋市庄内川河口, 2008年7月13日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて現在4カ所である。庄内川河口域・藤前干潟(名古屋市)以外の生息地では個体数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島南部(順天湾)、国内では三河湾～九州に分布する(福田・久保, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

県内では、上述したようなヨシ原湿地周辺の10 cm以上深く埋もれた石や朽ち木の下面に付着している。稀にヨシ原群落内の小さな水たまりにたまった朽ち木や落ち葉に付着している。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

県内の生息地は分布の東限になっている。模式産地の和歌山県和歌浦では環境悪化のため採集されず、有明海から再発見されるまで長らく幻の貝であった(木村, 1987)。

レッドデータブックなごや2004(木村, 2004)では、本種と正しく同定された藤前干潟産の生貝標本が図示されていたが、レッドデータブックなごや2015(木村 加筆 川瀬, 2015)では福岡県産の標本に差し替えられている。その地で採集された貝類の画像はレッドデータブックの大きな資料(データ)の一つなので、他産地の標本はなるべく使用しないことが望ましい。

【引用文献】

- 福田 宏・久保弘文, 2012. ワカウラツボ, p. 38. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一, 1987. ワカウラツボを有明海にて採集. 南紀生物, 29(2): 95.
木村昭一, 1989. ワカウラツボを汐川干潟(三河湾)にて採集. 南紀生物, 31(2): 130-131.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.
木村昭一, 2004. ワカウラツボ, p. 286. in: レッドデータブックなごや2004 動物編. 368pp. 名古屋市環境局.
木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. ワカウラツボ, p. 428. in: レッドデータブックなごや2015 動物編. 503pp. 名古屋市環境局.

(木村昭一)